

・街・

防壁から外へ一歩踏み出そうとすると、巡回中の衛兵が、びくびくした様子で手招きしているのに気づいた。そして耳打ちしてきた。

「善良なる市民諸君。諸君はいわゆる、まあ“やり手の部隊”だと、あちこちから聞いている。そこでひとつ頼みがあるのだ……実は私は隊長から『とある貴族の先祖代々の墳墓を調査せよ』という命を受けた。騒ぎがあったという報告があったのだ。

近隣住民は『深夜になると何か奇妙な動きがある』と言っている。当直の際に接近してみたのだが、何かの悲鳴が聞こえた……この世のものとは思えないおぞましきで、背筋まで凍りついた。ああ、聖なる大槽に賭けて、あそこに戻るなんて真っ平御免だ……」

選択 A : その衛兵から、もっと詳しい話を聞きだす。

選択 B : たわごとなど聞いていられるか。無視して先に進む。

SoXI

A. 個人クエスト〈ズォーンの探求者〉遂行中：そういうはこの手の話には、どこか馴染みがあった……幼い頃、寝物語で聞かされなかったか？

選択結果 B を読むこと

さもなくば：衛兵の繰り返す言は、独り言となった。かの悲鳴の恐ろしさを再現し、自分がなぜそこに戻れないのかの釈明をブツブツと続ける。正直、狂人の戯言にしか聞こえなかった。街の治安のためにも、衛兵がこの恐怖を克服できるよう、何とか元気づけた。

効果なし



B. 不安げな衛兵を後に残して去ったにもかかわらず、その話に惹きつけられる自分がいた。死人の森の境に差しかかると、頭の中に何者かの思考が侵入し、他に何も考えられなくなる。妄想じみた声なき声が、ささやきかけてくる。ため息をつき、そうしたくないにもかかわらず仲間を説得し、東駐屯所まで引き返していた。涙目の衛兵は、こちらを見ると喜びと感謝で興奮し「この仕事に見合うだけの報酬は用意する」と約束してくれた。

シナリオ解放：貴族の聖堂 SoXI (C-19)



・街・

〈貴族の聖堂〉の調査を依頼してきたあの衛兵を探して、街じゅう歩き回ったものの、徒労に終わった。あきらめて沈める市場のボロ酒場に足を踏み入れたところ、その衛兵に出くわした。

「おお、友よ！ よくぞご無事で！ 聖なる大楯の加護に感謝を！ どうぞこちらへ！」

口から漂うエール臭は酷かったが、ひとまず席についた。すると衛兵は、ためらいもせず小さな金貨袋を渡してきた。

「また会えて本当にうれしい！ ティボルトと呼んでくれ。私たちはきっといいチームになれる、私と諸君とで！」そこで大きなおくびを吐き、さらに大きな笑みを浮かべた。「ところで、ふたつほどまた新たな依頼があるのだ。沖への船旅と、時計仕掛けの洞穴での探索。どちらに興味がおありかな？」

パーティ全体で 20 ゴールド獲得

選択 A：海洋での冒険。

選択 B：古代遺跡への旅。

SoX2

A. 「貨幣区のお偉方が、去らずの沼から東の海岸付近の海底調査に、報奨金をかけている。奇妙なガラクタが浮かんできた報告が、漁師からあがってきて以来、海底に古代遺物があるんじゃないかって、連中は睨んでいるんだ。駄賃も払うそうだ。一枚噛んでみる気はないかね？」

シナリオ解放：水底の聖堂 SoX2 (L-14)

B. 「見張りの山脈の民が『地下から巨大な機械の稼働音がする』との報告をあげてきた。連中は古い聖堂の入口まで武装集団を送ったらしいが、誰も帰らなかった。その聖堂には『踏み荒らす者、己の影に食い殺されん』という言い伝えがある。まあ馬鹿げた話だ。何か価値あるものが眠っているに違いない。見つけたものは何でも、諸君の好きにしまわなさいよ」

シナリオ解放：古代の聖堂 SoX3 (O-2)

・街・

鱗の堰を通りかかると、軍の練兵場から大声が響いてきた。

「ああ、生きて帰って来られたのか！ また会えて嬉しいよ」

息切れしながらも、ティボルトはずんずんやって来る。この衛兵の依頼を受けたせいで、死にそうな目にあったという事実が脳裏をよぎる。

「いやあ、探してたよ。なかなか会えないものだから、避けられているのかと気にしてたんだぜ!」しばし、万感の思いがこもった沈黙が流れる。「……それはともかくとして、もうひとつの依頼の話をしようじゃないか。まだ終わらせてなかっただろ？ 聖堂探索が諸君の得意分野のようだから、もう1回チャレンジしてみるのは、どうだい？ 悪くない話だろ」

選択 A : その、もう1つの依頼とやらについて詳しく聞く。

選択 B : 懇懇に断固として断り「もう君の依頼はこりごりだ」と伝える。

SoX3

A. 「諸君なら五体満足で戻って来られるだろう……という可能性に賭けて、ちょっとした聖堂荒らしの冒険を用意しておいたよ。依頼人には『なあに、専門の特務部隊が片付けてくれますよ』って言っておいた。やってくれるだろ？ ああ、忘れるところだった。前回の諸君の活躍のおかげで、ちょっとした臨時収入があったんだ。これが分け前だ!」

パーティ全体で 20 ゴールド獲得
シナリオ解放：水底の聖堂 **SoX2**(L-14)、古代の聖堂 **SoX3**(O-2)
イベント解放：街の **SoX4** 番



B. 個人クエスト〈ズォーンの探求者〉遂行中：依頼を断るべく口を開こうとすると、再び声なき囁きが脳裏に響き渡った。「依頼を受けよ」と。あるいは真実は、この先にあるのかもしれない。

選択結果 **A** を読むこと

さもなくば：「そいつは残念！ 諸君が考えを改めてくれることを願うよ。これはそのための前金だ」

パーティ全体で4ゴールド獲得



・街・

冒険から戻ると、ティポルトのおかげで稼げた金貨と、依頼の苛烈さが交互に脳裏をよぎった。

態度の良し悪しはともかく、少なくとも懐は暖かくなった。さらなる任務を期待して、今まで彼を見かけた場所を探してみる。沈める市場の酒場、鱗の堰の練兵場……しかしどこにも見当たらない。とてつもなく奇妙な感じがした。次は、いったいどうしたらいいのか？

選択 A：衛兵の詰め所まで出向き、尋ねてみる。

選択 B：そんなのは後。今は〈眠れる獅子亭〉で勝利の美酒を味わおう。

SoX4



A. 付近の詰め所まで足を運んだ。ティボルトの姿はない。受付の衛兵に、彼は今日どこで働いているのかと尋ねてみる。

「ええっと……そのような名前や容姿の衛兵は記録にありませんな。何かの間違いでは？」

困惑しつつ、再確認を頼むが、やはりそのような人物は見つからなかった。手をわずらわせたことを謝りながら、詰め所を後にした。頭のなかは混乱でいっぱいだった。あいつは一体、何者だったのだろうか？〈眠れる獅子亭〉へと戻る途中、誰かに見張られている気配が拭えなかった。

効果なし



B. 今日一日は休息にあてよう。〈眠れる獅子亭〉へと戻り、エールを飲み干しながら、どんちゃん騒ぎに明け暮れた。なあと、ティボルトなら、またいつかどこかで再会できるだろう。

効果なし

